

ご 挨 拶

望月 昭

(立命館大学人間科学研究所所長)

○**司会：サトウタツヤ（本学文学部教授）** 本日は、四つの系、オープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築」プロジェクトを支える四つの系に属するグループごとに、20分ほどの御報告をいただくということになっております。配布資料に進行が書いてございますので、皆さんよろしくお願いいたします。

それでは、まず開会に先立ちまして、チームのリーダーでもありますし、本学人間科学研究所所長の望月昭先生にごあいさついただきたいと思います。よろしくお願いします。

○**望月** 皆さん、おはようございます。きょうは早くから夕方まで、長時間ですけれども頑張ってください。

毎年この時期に、オープン・リサーチ・センター整備事業の発表会があります。ことしはポスターセッションも加えまして、発表しながらポスターセッションという、ちょっとバタバタするかもしれませんが、20分の発表ではそのプロジェクトのすべての内容を網羅し切れないと思ひまして、ポスターの方には詳しい中身を書いていただいています。これは、後のオープン・リサーチ・センター整備事業のホームページの方のコンテンツにもなるということで、今回あらかじめチームリーダーの方にはそのようにお伝えしております。少し時間はかかりますけれども、人間研のホームページからオープン・リサーチ・センター整備事業の内容を改めて後で確認することもできます。

きょうは、遠く北陸から緒方先生、吉永先生に第三者評価に来ていただいております。それから北九州から松原平先生にも来ていただいておりまして、このオープン・リサーチ・センター整備事業以前の学術フロンティア推進事

業のときにもメンバーとして参加をいただいた方です。

今回は、事前にチームリーダーの方々にヒアリングをさせていただきまして、学術フロンティア推進事業以来「対人援助学の創生」というテーマについて、ここで単にみんなが寄せ集まっているだけではなくて、一つの方向に向けて新しいもの、つまり対人援助、ヒューマンサービスにかかわる新しい、佐藤（達哉）先生流に言えば新しい「学範」の立ち上げというミッションを共有して発表いただくようお願いしました。このことは、10年来の懸案課題でございますけれども、今回このオープン・リサーチ・センター整備事業の後半、これは2009年度まで続きますけれども、いよいよ「対人援助学」という名前を冠した「キーワード事典」でありますとか、さらにまとまった刊行物に集約しようというところまできております。そんなこともあって今回は、そのような「対人援助」ということにかかわって、それぞれのプロジェクトがどのように研究を行ったか、そういうことに少し力点を置いてお話しいただいたり、ポスターにも反映していただくということをお願いしております。それではよろしくお願いします。

また、16時から招待記念講演ということで、フリープロデューサー、元吉本興業のプロデューサーであった木村政雄さんに御講演いただくことになっておりますので、こちらでもよろしくお願いします。

この企画は、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築—対人援助のための人間環境研究」プロジェクト（2005～2009年度）の2007年度研究成果を広く社会に発信するものとして開催され、その報告書として刊行されたものです。